



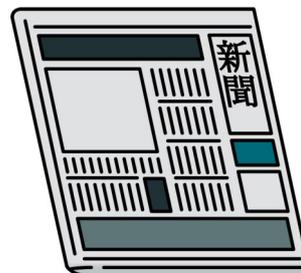
# 朝日子だより

## 特別編<インターンシップ>

吉田高等学校の皆さんへ

大学で行ったインターンシップについて書かせていただきました。新聞社にお世話になったのですが、その様子を皆さんにお伝えでき、それが進路の参考になれば幸いです。

坂本 若桜 (平成25年度 普通科卒業)  
都留文科大学 文学部 英文学科



興味を持つきっかけ



### 1. 記者を志したきっかけ

大学1年の終わり頃から、漠然と「記者になりたい」と考えるようになりました。当時報道されていた、ISによって2人の日本人ジャーナリストが殺害されたというニュースを目にしたのがきっかけです。

### 2. インターンシップに行くまで

2年になったものの、就職に関することは一切していませんでした。しかしある日、同じサークルの当時4年生で記者志望の先輩と話す機会がありました。そのとき、半年間石垣島にある(株)八重山毎日新聞社(以下、会社)で記者としてインターンシップをしていたことを知り、「自分もやりたい!」と思い、その先輩に頼み込みました。またそのとき、先輩からは「文章が下手でも記事は書ける」と言われたのですが、「どういう意味なのか?」実際に行くまで疑問でした。

昨年(2016年)の12月に会社の担当者の方に連絡をし、履歴書を送ったものの、1月下旬までインターンシップ採用の合否の連絡は来なくて焦りました。さすがに不安になって今年の2月上旬に自ら連絡をして、インターンシップを受けさせて頂けることが分かりました。これは、石垣に向かう9日前のことです…。急いで安い航空券を求めて、出発予定6日前に購入出来ました。採用報告から出発まで慌ただしかったのをよく覚えています。

右記の文は、インターンシップの志望動機です。

#### 志望動機

ノーベル生理学賞を受賞されて以降、メディアで大村智氏を目にしない日はありません。この賞を受賞するまでは、数多くの人々が彼の存在を知らなかったでしょう。もちろん私自身もそうです。そうしたなか、「世間に貢献をしているものの、その世間に名前を知られていない人はまだ沢山いるに違いない。」と強く考えるようになりました。そのような方々に焦点を当て、彼等のことを新聞という媒体で世に発信したいです。御社は地域密着型である点が魅力です。郷土に貢献されている方を深く取材するのが可能だと思っております。八重山列島とは親類もいなければ、足を運んだこともありません。だからこそ、このような地で挑戦したいと切望しています。何卒宜しくお願いします。

### 3. インターンシップ1週間目

社員さんたちの取材に同行していました。同時に、メモの取り方、カメラの扱い方、インタビューの方法も教わりました。教育委員会の会議やプロ野球チームの千葉ロッテマリーンズのキャンプなどジャンルを問わず、様々な場所に足を運びました。中でも海上保安庁所有である尖閣諸島の巡視船「とかしき」の開校式に出席しただけでなく、他のテレビ局のインタビューの為に現役の海上保安庁長へ自分がマイクを向けた経験は貴重でした。

また、3日目には実際に記事を書き、翌日には新聞に掲載されました。自分の記事が新聞に掲載されたときは見て嬉しいとしか言いようがなかったです。

他にも、バスケットボールのbリーグで活躍している琉球ゴールデンキングスの試合の際は、写真撮影（←私も参加）、試合の流れ、選手へのインタビューなど分担して最終的には全員が連携して1つの記事に仕上げていく過程を目の当たりにしました。この日は試合が夜だったこともあり、記事を書き終えたときは日付が変わっていました（これには驚きました）。そして朝8時を迎え、中国人観光客の爆買いをテーマにした特集をされていた方の取材に同行させて頂きました。（※独自でこの記事に取り組んでいた方は、前日にはバスケットボールの取材をして、日付が変わってから退社した方です。）別の日には竹富島や西表島にも行き、後者で開催されたイリオモテヤマネコの保全会議に出席しました。

1週間目の感想は「記者ってきつい」です。社員の方々の様子を見て、「いつ休んでいるのだろう？」って疑問も持ちましたし。

### 4. インターンシップ2週間目

自分1人で取材しました。編集長から頼まれることもあれば、自分からネタを探しに町に出かけることも。時には、地域の方にネタを提供して頂くこともありました。

ある日、市立図書館の司書さんたちが保育園で絵本の読み聞かせをするの話を聞いて取材に向かったもの、道に迷い予定時刻より遅れてしまいました。着いた頃には読み聞かせは終わっていたにも関わらず、司書の方々がもう一度園児たちに読み聞かせをして下さったのです。迷惑をかけたのに、ご厚意のお陰で無事記事に出来ました。

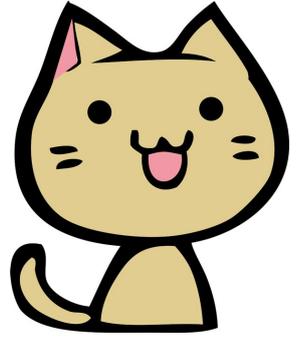
同時期に、「在校生による卒業生へのサプライズ」のテーマで地元の高校を取材していました。内容は、生徒会が中心になって実施したもので、卒業生がお世話になった方々に手紙を書いて貰うよう依頼し、当日に式後のHRで渡される、というものです。放課後の時間帯に何度も高校を訪問して、部活動に一生懸命励んでいる様子を見るたびにハッとしました。生徒会役員の生徒さんたちと主に接していましたが、とにかく明るいうちで取材しやすかったのを覚えています。彼らから「記者になって下さいね!」と言われて感無量でした。生徒会長は野球部唯一女子部員だったり、副会長はカラーガード部だったり兼部している役員が多かったのには驚きでした。吉高とは違う魅力があり、新鮮でしたね。

2週間目の感想は「やりがいが出てきた」です。自分の書いた記事を地域の人に「読んだよ」って言われたときは、大変だったけれどやって良かったと心の底から感じました。また、記事を書くにあたって、校閲の大切さを知ったのはこの時期です。何度も書き直しを宣告されて、記事をまとめるのは大変でした。1つの記事を書くのに、半日以上かかったこともあります。しかし、校閲担当の方はやはり言葉に精通しています。書き直せば直すほど文章がスマートになるのです。先輩が言っていた「文書が下手でも記事は書ける」の意味が分かりました。校閲あつての新聞だと、思い知らされました。



## 5. インターンシップ3週間目

特集記事に取り掛かりました。テーマは「ペットのトライアルを経験して」です。保護団体から成猫の1週間のトライアル(=試しに飼育すること)に挑戦された一家の取材をしました。家での猫の様子を飼い主さんから聞き、家族の皆さんの心境も教えて頂きました。猫の写真を撮った際に、その猫(マリン)がシャッター音に驚き隅っこに隠れてしまい、その後の撮影は困難でした。一家は1週間を経た後もトライアルを再び決意しました。この取材を通して「動物と暮らすのは容易ではない」と感じました。息子さんが、「マリンじゃなきゃ嫌だ。」と言ったのが忘れられないです。



もう一つのテーマは「石垣島の野良猫問題」です。これは、市役所を始め、地域の保護団体、ペットショップや住民の方々など本当にたくさんの人を取材しました。自分が決めたテーマにも関わらず、筆が進まず一番大変でした。地元の事情に精通する必要があり、記事にするのに4日も掛かりました。

3週間目の感想は「あっという間」です。土地勘が多少は身に付き、石垣島に馴染んできたのに…。ミスをして落ち込むこともありましたが、私の場合、余計なことを考える暇がないほど忙しかったけど、中身が濃かったです。今でもちゃんと覚えているくらいです。

## 5. インターンシップを経て

知らない場所に行くのが怖くなくなりました。多くの人にも出会いました。普段だったら、こんなに人と知り合わないだろうってくらいでした。

また、ある社員さん2人にはとても世話になり、ほぼ毎晩夜は食事に連れて行って貰いました。2人には「挨拶は必ずするように」と常に言われました。当たり前だけどとても大事なことで、人と接する以上不可欠だとインターンシップを終えて痛感しました。挨拶を徹底したからこそ、たくさんの人と知り合いになれたのかな、と。そして、こういう仕事はアバンギャルドさが必要だと思いました。

こんな素敵な経験が出来たのは、先輩に将来の夢について話したことが発端です。それだけで、事が運びました。自分の意思でやった場合、結果がどうであれ後悔は少ないです。むしろ、そういう場合は大体上手くいくことが多いように私は感じます。

## 6. 吉高生へ

将来について誰かに言ってみるのは良いことだと思います。その際、馬鹿にしたり否定したりする人はいます。しかし、否定せずに応援してくれる人たちが必ずいるのでご安心を。

現段階で、夢や目標がないからヤバい!!なんてことは全くないです。とりあえず、ジャンル問わず多くの経験をしたり、たくさんの人と接したりすれば良いです。良くも悪くもやってみれば、何かしらは得ます。そんなことをしなくても、些細なきっかけで夢や目標が出来る可能性もあります。でも、無理やり夢や目標を見つけようとするのは辞めた方が良いです。見つからないし、無駄に疲れます。

勉強をこなしつつ、若いうちにしか出来ないことをして下さい。

